

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 24 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520339

研究課題名(和文) ドイツロマン派期の文学と「クンストカマー」受容

研究課題名(英文) Literature in the period of German Romanticism and the reception of the
Kunstammer-concept

研究代表者

桑原 聡 (Kuwahara, Satoshi)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：10168346

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、ミュージアムという公共啓蒙空間が18世紀に成立すると同時に消え去った蒐集キャビネットであるクンストカマーが18世紀末のドイツ・ロマン派の時代の思想家・文学者によって再受容されたことの意義を解明したものである。

ミュージアムという制度は、近代科学の成立と軌を一にしていた。それに対してクンストカマーはそれ以前の、ルネサンス・バロック時代にヨーロッパの各地に見られた蒐集キャビネットである。その分類方法はミュージアムのものとは根本から異なり、世界・宇宙を表象するものであった。

クンストカマーがドイツ・ロマン派の時代に再受容された背景は、彼らの近代に対する批判があったことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)： This research aimed at making clear why the Kunstammer-concept - Kunstammern had been cabinets of curiosity before the establishment of the museum and very popular in Europe - was taken up again in the period of German Romanticism.

It elucidated that the Kunstammer-cconcept had been accepted by poets, authors and thinkers in that period as a pregnant thought to criticize the 'Moderne'.

研究分野：ドイツ文学

キーワード：クンストカマー ドイツロマン派 文学 ノヴァーリス J.パウル 近代 断片 ユートピア

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は一貫してドイツ近代文化の文化史的研究を行ってきた。研究代表者のアイヒェンドルフの文化史的研究として、アイヒェンドルフの政治思想、アイヒェンドルフ作品における「鉱山のモチーフ」、「水の精のモチーフ」とアイヒェンドルフの宗教思想、「天球の音楽のモチーフ」を扱い、アイヒェンドルフ文学に特徴的な文学的モチーフが「近代」に対する反応として一貫して捉えることができることを解明した。また、アイヒェンドルフ文学の主要な文学的モチーフの一つである庭園を、ドイツ近代文学に即して(ロマン派からP.シェアバルトまで)「自然」と「人工」という観点から精査し、ドイツ近代文学においては「人工庭園」が圧倒的に好まれたこと、それがシェアバルトの「ガラス庭園」において極まること、さらにそれがゲオルゲという例外はあるにせよ、反自然を志向しているのではなく、失われた根源的自然を指し示す「楽園」という神秘主義的表象、即ちすべての存在の根源に神的唯一者を想定しそれへの遡及を理想とする表象に結晶することを明らかにした。

研究代表者は、また、庭園モチーフの研究においてノヴァーリスがイギリス風景式庭園を「楽園」と表象している一断片に着目し、ノヴァーリスにとっての庭園の意味とクンストカマーの意義に着目した。ノヴァーリスは「一般草稿」断片 929 において「植物園」「イギリス風景式庭園」「クンストカマー」に触れ、それらが「楽園」を象徴するものであるという注目すべき発言を行っている。ノヴァーリスは作品においては「人工庭園」を「楽園」の象徴として描いているが、断片においてはイギリス風景式庭園を「楽園」を指し示すものとして挙げる。このことは一見矛盾のように見えるがそうではない。イギリス風景式庭園はその成立の始めから政治性とピクチャレスク美学に強く影響されていた

ために「自然」が宇宙を表象するという観念がノヴァーリスの望むように明確に造園に現れることはなかった。しかしながら、風景式庭園には、それがいかに理解されたにせよ、理想の自然の再現という観念が背景にある。風景式庭園が自然・宇宙の全体を理想的な状態で表象する場であるとするならば、「植物園」は学問的分類の場であると同時に、それが庭園の一部として設置されたが故に宇宙表象の可能性を潜在的にもつことになろう。さらにこの「断片」929 で名指されている「クンストカマー」は上の解釈を補強する。クンストカマーはルネサンスから近代的ミュージアムが成立するまで(およそ 1720 年頃まで)ヨーロッパで大流行した蒐集キャビネットである。従来クンストカマーは(近代科学的)分類の存在しない雑多なコレクションと理解されていたが、1980 年代頃から学問史における知の変容を解明する研究によってそれが蒐集物の無限の組み合わせを観る者に可能にすることによって宇宙を再現し全体知を目指すコレクションであり、近代とは異なった分類方法を取っていたことが明らかになり、さらに、その背後にはマクロコスモスとミクロコスモスの照応関係というピュタゴラスに由来する「前近代的」考え方と、G. ブルーノ以後の、宇宙の無限という「近代的」思想が混交していたことが判りつつあった。

このように見てくると先のノヴァーリスの断片の「植物園」「庭園」「クンストカマー」はすべて、失われた「楽園」、失われた宇宙の全体性の再現を巡る思索であることが理解された。研究代表者は、ノヴァーリスが、「百科全書学」を、「断片」の無限結合可能性によって宇宙の全体性を表現する文学的方法と理解していた可能性を指摘し、ヘルメス主義的伝統の影響が文学形式にまで及んでいることを示唆した。

2. 研究の目的

本研究は 1980 年代から欧米で始まったクンストカマー研究の成果を取り入れ、それに基づき、ドイツロマン派の時代の文学に再び復活するこの概念の意味するところを明らかにし(とりわけノヴァーリス)、さらに、Fr.シュレーゲルに見られる文学方法としての断片ないしは断片集、及びJ.パウルの長編小説に跡づけることができるであろう方法としての断片化、逸脱(J.パウルの初期の小説にはクンストカマーという語が何度か現れる)に、近代に対する方法としての抵抗とユートピア志向を明らかにしようとしたものである。

3. 研究の方法

本研究は、「クンストカマー」という、啓蒙期以前の制度が、ドイツロマン派の時代の文学者のユートピア構想のモデルになったことを解明することを目的としたが、そのためには文献学的・文化史的研究が不可欠であり、関連文献の蒐集とノヴァーリス、Fr.シュレーゲル、J.パウルの作品の精読・分析を行った。

4. 研究成果

ドイツロマン派のノヴァーリスが活躍していた、18世紀の終わりに収集の新しい制度が確立しつつあった。すなわち公共啓蒙空間としてのミュージアムである。それは近代科学の成立と軌を一にしていた。フライベルク鉱山アカデミーで自然科学を学んだノヴァーリスは当時の最先端の科学に通暁していた。そのノヴァーリスが「一般草稿 百科全書学のための資料」として知られる断片集の中でクンストカマーに言及している。当時すでに「時代遅れ」とみなされ、顧みられなくなっていたクンストカマーという収集形態の何がノヴァーリスを引きつけたのか。クンストカマーの収集原理は、自然のものも人工のものも、美術品も道具も区別せず、「珍し

いもの」Mirabilia を集めるということであった。「珍しいもの」においてこそ、自然・人間の創造力がもっとも明瞭に現れるとする考え方により集められた収集物が、全体として、世界・宇宙を表象するというのがクンストカマーの根本思想である。そこにはミクロコスモス・マクロコスモスの照応という古代以来続く世界観が看取できる。ノヴァーリスは近代科学の成立とともに世界が調和と統一を失うという危機感を抱いていた。世界の調和の回復というノヴァーリスのユートピア構想にとってクンストカマーの考え方が一つのモデルとなったことを解明することができた。

2. ノヴァーリスの友人であり、初期ロマン派の理論家の一人である Fr.シュレーゲルの「ロマン主義文学は発展的総合文学である」で始まる、かの有名な断片において、「ポエジー」「文学」は、ノヴァーリスの場合同様、学問と芸術の総合概念であり、それらは「百科全書」と名づけられる。「アテネウム」を発刊していた時期のシュレーゲルにとって「断片」という形式は、彼の思想を表現する重要な媒体であった。断片を集積し、それらの間に思考の無限のネットワークを構築し、そこにあるべき理想の世界を表象しようとした初期シュレーゲル作品においてもクンストカマーの原理を見取ることができることを明らかにできた。

3. ロマン派の時代の異端児である J.パウルの文学は「廃墟の集積」とも称される。ノヴァーリス、シュレーゲルと較べると、絶対者を失い、無限に放り出され寄る辺のない近代人の存在をより痛切に意識していたJ.パウルが、それでも「楽園」としての「第二の世界」を構想・夢想するとき、近代とは異なった思考、方法が要請される。「断片」という概念はJ.パウルにとっても決定的な意味をもつ。

本助成期間においては彼の初期の長編小説二編『見えないロッジ』（1793年）と『ヘスペルス』（1795年）を対象とし、「断片」概念とクンストカマー概念の関係を分析した。J.パウル作品においてクンストカマー概念は、先ず、「植物標本」等の、クンストカマーを構成する重要なコレクションとして現れているが、それらが、ノヴァーリスの場合とは異なって、否定的なニュアンスで描かれていることが判明した。クンストカマーはJ.パウルにあっては、断片化してしまった世界すなわち、統一と調和を失った世界の比喩として使われている。しかしながら『見えないロッジ』の付録として書かれた「ご満悦なヴッツ先生」においてのみクンストカマーは、ヴッツ先生の幼年時代の「がらくた」の集積でしかないが、それらがヴッツ先生に幼年期というユートピアを常に想起させるという意味でクンストカマーの持つ「楽園」の象徴として描かれていることを突き止めた。さらに、この作品に「ある種の牧歌」という副題が添えられていることから、当時の牧歌の概念（たとえばシラー）からして、この小品が近代に失われてしまった「無垢の状態にある人間」、すなわち自らとまた外界との調和と平和の状態にある人間を描いていることを解明できた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 4 件)

(1) 桑原聡、『ウェリギリウスの死』における「純粋なコトバ」について、藝文研究、査読なし、Vol. 109-2、2015、152-166

(2) 桑原聡、キルヒャーとクンストカマー、19世紀学研究、査読あり、Vol. 9、2015、5-19

(3) Satoshi Kuwahara, Jenseits des Subjekts, jenseits der Sprache, SUBJEKT UND SUBJEKTIVITÄT 1800 | 1900,

WOLFGANG BRAUNGART / HELENA KÖHLER (HG.), 査読なし, 2015, 36-55

(4) Satoshi Kuwahara: Die Idee der Kunstkammer als ein Modell für die Enzyklopaedistik des Novalis, Study of the 19th Century Scholarship, 査読あり, Vol. 109-2, 2013, 17-31

〔学会発表〕(計 5 件)

(1) 桑原聡、ドイツロマン派の時代における Kunstkammer 概念の受容 - ノヴァーリスと J. パウルの場合 -、Humboldt-Kolleg Tokio 2016 (国際シンポジウム)「思考手段と文化形象としてのイメージ アビ・ヴァールブルクから技術的イメージ・図像行為まで」, 2016年4月9日、東京大学駒場キャンパス

(2) 桑原聡、ドイツロマン派におけるクンストカマー受容について、19世紀学学会シンポジウム「クンストカマー 世界の蒐集とエクリチュール」, 2016年3月28日、新潟大学総合教育研究棟

(3) 桑原聡、『ウェリギリウスの死』における「純粋なコトバ」について、日本独文学会北陸支部、2015年11月14日、新潟大学駅南キャンパス・ときめいと

(4) 桑原聡、アタナシウス・キルヒャーとクンストカマー -、19世紀学学会シンポジウム、2014年、3月8日、新潟大学総合教育研究棟

(5) Satoshi Kuwahara, Jenseits des Subjekts - Wiedervereinigung vom Weiblichen und Männlichen als ein anderes Wissen' - (国際シンポジウム) Konzepte des Subjekts und Konzepte der Subjektivität: 1800/1900, 2013年8月29日, Zentrum für interdisziplinäre Forschung der Universität Bielefeld (ドイツ)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桑原 聡 (KUWAHARA SATOSHI)
新潟大学人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：10168346

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：